

中学生の「税についての作文」

大川大木租税教育推進協議会 会長賞

私達が支える税の未来

大木町立大木中学校

三年 藤 吉 茉 衣

「えーあがると。」

これは、二〇一四年に税率が五パーセントから八パーセントになったときの私が発した一言です。まだ小学五年生だった私はあまりよく税金の使い道を知ってはいませんでした。知っていることといえば小・中学校の教科書が税金によって買われている、ということぐらいでした。

中学校になって教科書が無償で支給されることについて詳しく知ることができました。新学期のはじめには、教科書が無償で支給されるようになるまでの出来事を必ず先生がプリントを使って話され、そのプリントには自分の学年で使う教科書の価格がかかれています。中学一年生でこの価格を見るまで教科書がこんなに高いものだとは思いませんでした。中学校三年間で使う教科書の総額は一人あたり約一万四千八百円にもなるそうです。これが全国の中学生に…と考えるとそのお金は私達では考えることのできない額になるでしょう。

さらにこれにもっと高い教育費が加わるのです。教育の面だけでも膨大な額の税金が使われていることを中学生になって知ることができました。

私達はこの税金をこの先納めていかなければなりません。しかし今現在の日本は少子高齢化であり、全人口にしめる高齢者の割合は約二十八パーセントで、二〇五〇年には約三十八パーセントにもなるといわれています。つまり高齢者一人に対する働き手が少なくなり、一人ひとりの負担が重くなるということです。私達にできることといえば、税金について多くのことを知り、絶対に脱税をしないことだと思います。そして国は、ニュースで報道されているような税金の無駄遣いをなくすよう努力していくべきだと思います。

私は税金について知っているほうだと中学生になって思っていました。税金のことを調べれば調べるほど知らないことができてきました。税金のことを少し多く知ることができた今ならば、たとえ税率が十パーセントになっても四年前の八パーセントに上がったときのような一言は発さないとはいえません。特に上がるから嬉しいというわけではなく、プラスに考えて、何か救われることが少しだけ増えるという風に考えると「税率が上がる」ということについて考え方が何かしら変わるのではないのでしょうか。私はまだ税金について全てのことを知ったわけではないですが、私はまだ税金について全てのことを知るべきことはたくさんあると実感しました。これからは、身の周りの多くのことが税金で成り立っていることを頭に入れ、今、私達が関わっている税金について中学生として最低限のことを学ばなければならぬと思いました。